

『過労死防止学会誌』これまで と これから

高田好章 学会事務局・編集委員

《報告要旨》

○『過労死防止学会誌』の、これまで

◇『過労死防止学会誌』事始め：創刊号発行：2020年度

・報告要旨集から学会誌へ：事前から事後へ：第6回大会（2020年度）5月開催から9月開催へ

・ショッピングセンター駐車場で長い電話：

構想が発展して実現へ：大会報告集から学会誌発行へ コロナ禍の決断

・学会設立構想と学会誌：すでに学会の進むべき道が示されていた：「機関誌の定期発行」

・急な対応：常任幹事会が発行元に

・第1部：特別シンポ・共通論題の報告者、分科会の報告予定者へ原稿依頼

・第2部：特別シンポ・共通論題：当日報告・討論の録音を反訳、掲載

・原稿集め：原稿が届かない、何度も催促へ 12月発行予定から3月発行へ

・知遇の出版社の方からアドバイス：毎号、貴重なご意見をいただく

◇第2号発行 2021年度

・編集委員会の準備と発足へ：編集体制を模索

◇第3号発行 2022年度

・編集委員会の本格的活動へ：「編集委員会規程」を制定

・提出原稿への編集委員会からの「校閲」を実施

・発行の1年後にホームページで学会誌を公開

◇第4号発行 2023年度

・論考の「英文タイトル」を掲載

○『過労死防止学会誌』の、これから

◇今後の課題

・今後も会員からの投稿を増やしていく

・「英文サマリー」の掲載

・「査読」の実施：「編集委員会規程第2条」査読体制づくりが必要

・「過労死関係の文献情報、新聞記事・雑誌記事情報、過労死をめぐる年間動向」を掲載

◇目指すべき目標

・この学会誌を読めば過労死防止関連の概要が分かる、いつでも知りたい情報が掲載されている

そのような冊子である、ということが、この学会誌が目標

・この日本で、いや世界で、「過労死」をなくす運動への一助となること

・学会の目標：この学会が必要なくなること

※参考資料：『過労死防止学会誌』第1号(2020年度)から第4号(2023年度)までの「編集後記」

[2024-08-13 版]

編集後記

大変遅くなりました、『過労死防止学会誌』第1号、創刊号をお届けいたします。

昨年初頭から日本だけでなく、世界中でコロナ禍が大きく拡がり、生活や働き方など様々な部面でこれまでにない対応を強いられ、いろいろな問題が生じています。個人的にも、研究会やゼミの中止・延期で出かける機会が減り、オンラインによる研究会や会議が普通に行われるようになりました。働き方における大きな変化では、在宅勤務、リモートワーク、副業解禁などの新たな動きがあり、働くすべての人々、特に非正規労働者やフリーランスなどへの影響が大きな問題となってきています。

このような働き方に対する大きな変貌を前にして、医療現場や介護現場などで働く人々をはじめ、多くの職場の人々において、コロナ禍における肉体的また精神的な影響がどう変化しているのか、過労死防止という観点からそれをどのように捉えていくのか、そのことはこの学会に課された使命であり、重要な課題でもあります。

過労死防止学会の大会は、これまで5月下旬から6月初めに開催され、今年度も5月30～31日に名古屋での開催を予定していました。3月末までは開催準備作業を続けていましたが、4月上旬にコロナ禍が収まらない中で、開催を秋に延期することを決め、掲載した「資料」にありますように、規模を縮小して9月中旬の一日のオンライン開催とし、少人数の会場参加と会員・会員外のオンラインによる参加を、7月中旬に決めました。また、通常であれば、大会前に『報告要旨集』を準備して会場で配布することになっていましたが、オンライン開催と規模縮小のため、『報告要旨集』はネット配信とし、大会後に「大会報告集」を出すことを計画していました。

この度、「大会報告集」構想から発展して、『過労死防止学会誌』の創刊に至った経緯は次のとおりです。9月の大会が終わり、大会報告と質疑応答の反訳(文字起こし)までは順調に進みましたが、報告者の方々への論文執筆依頼に私の事務的なミスがあり、その事で10月下旬に代表幹事の黒田兼一先生から私に電話があり、運転中のため車をショッピングセンターの駐車場に停め、少し長く話をしました。黒田先生からは、この度の冊子は単なる「大会報告集」ではなく、大会の報告者が報告と質疑応答を経て、報告よりも一歩進んだ論文を書いていただくこと、内容を充実して『学会誌』として刊行し、さらに今後は編集委員会を組織し、会員に論文の投稿を呼びかけ、学会活動の一つとしての『学会誌』の位置づけを熱く語られました。その後、常任幹事の皆様と議論を重ねて、幹事会の了承を得て創刊号の刊行に至りました。今回編集の過程で、この学会設立の経緯を調べますと、創設者の一人、森岡孝二先生が学会設立構想の中に、「機関誌の定期発行」を将来の目標としていたことがわかりました。森岡先生は私達が進むべき道を既に示しておられたのです。

急遽決まった『学会誌』の編集・発行は常任幹事会が担うこととなり、編集実務にまったくの素人である私が作業で右往左往しながら、黒田先生はじめ常任幹事の皆様の助力を得ながら、何とか『学会誌』として形あるものにしてきました。しかしながら、編集実務の不慣れや原稿執筆者対応など、いろいろな事情により、12月の発行を目指しながらも、とうとう年度末の3月の発行となったことは、会員の皆様には申し訳ないと思っております。

創刊号は「手作り」感満載の姿となりましたが、報告論文だけでなく大会当日の反訳を掲載することで、臨場感ある冊子としました。今後、大会報告論文だけでなく、会員の皆様からの投稿論文、現場報告などを掲載する『学会誌』として、充実と発展を期待しています。

2021年3月20日

高田好章 (事務局編集担当)

編集後記

『過労死防止学会誌』第2号を皆様にお届けします。

今号には、21編の論考を掲載しています。そのうち10編は、昨年9月に行われた第7回大会報告者のうち、共通論題と特別シンポジウムの報告者の方々に、大会での報告と会場における議論を踏まえて、改めて執筆いただいた論考です。また、分科会報告者の方々にも論文を募り、投稿していただきました。さらに、広く会員からの原稿募集をおこない、編集委員会での査読を経て掲載しております。なお、イム・サンヒョク氏からのハングル原稿は、会員の脇田滋氏に翻訳をしていただきました。

昨年度の創刊号(第1号)の発行経緯については、前号の編集後記に詳述しましたが、前号では、事前の準備に余裕がなく、学会誌としてどのように編集していくのかも分からず、印刷・製本業者への依頼、発送方法など、常任幹事の皆様に相談し、また縁を頼って精通した出版の方々に教えを請い、やっとのことで冊子が出来上がりました。さらに発刊後も、出来上がった冊子に対して、様々な方から色々な助言をいただきました。

今号では、常任幹事会のもとに編集委員会(準備会)を設置し、新たな編集体制で作業を行いました。特に、ネット上に版下を置き、共に相談しながら校正などができ、知恵を出し合い細かなところまで点検できることは、とても助かりました。第1号より少しは充実した冊子をつくることができたと思っております。それぞれ多忙であるにもかかわらず、執筆にご協力いただいた皆さんに感謝を申し上げます。

今後、この学会誌をどのように育てていくか、いくつかの要点をここに示します。

第一に、書き手をもっと増やすことです。大会での報告者に事後に論考を書いていただくことは、これまで通りです。さらに、会員からの論文投稿を募っていくことです。本学会は、研究者だけでなく、過労死被災者とその家族、医師、弁護士、活動家、ジャーナリスト、学生など多様な会員から構成されている点に特徴があり、通常の学術研究者集団からなるピュアな学術学会とは性格が異なります。それゆえに、「研究論文」や「研究ノート」として掲載する際には、本学会の性格に適した「査読」の基準を創っていく必要があると考えています。また、「その他」として、会員から提供されるさまざまな情報や意見なども掲載し、情報の共有化を進めていくことが重要です。

第二に、編集体制のことで。来年度は正式に編集委員会を立ち上げ、新たな編集体制により充実した学会誌にする予定です。

第三に、新たな企画を取り上げることです。まずは通常の学会誌が掲載している書評欄の設置です。過労死問題や過労死防止に関する本を取り上げて、紹介から批評まで行う欄です。それに関係しますが、文献情報も有益です。さらに新聞記事・雑誌記事の情報は記事名だけでも有益なものになります。次に、過労死防止をめぐる年間動向情報です。関係する政策や行政の動き、過労死防止運動・集会など、また様々なメディア情報、トピックスなどの情報を掲載すれば、この1年間で何があったのか、知ることが出来ます。

これらの要点のすべてをすぐさま行うことは、到底不可能です。編集体制を整えながら、一步一步可能なところから進めていけばいいと思います。

この冊子を読めば過労死防止関連の概要が分かる、また、いつでも知りたい情報が掲載されている冊子である、というのがこの学会誌が目標とすべき一つだと思っています。

今後も、会員の皆様からのご協力を得ながら、より良い学会誌にしていく所存です。

2022年3月1日

編集委員 高田好章

編集後記

『過労死防止学会誌』第3号が出来上がり、会員の皆様方にお届けいたします。

今号には、昨年9月の第8回大会報告者のうち、「共同シンポジウム」と「共通論題」の座長・報告者・予定討論者の方々に、大会での報告と会場における議論を踏まえて、改めて論考を執筆していただきました。また、これまでと同様に、分科会報告者の方々に論考を募り、さらに、広く会員の皆様にも原稿募集をおこない、投稿していただきました。なお、前号の第2号では、分科会報告者・会員の投稿者の論考は12編でしたが、今号は11編です。このことから、分科会報告者やその他の会員の積極的な投稿をさらに広く呼びかけていかねばならない、と感じております。

編集委員会では、この間、委員会の体制を見直し、「編集委員会規程」を起案し、昨年の総会で承認をいただきました。委員会の役割を明確にし、体制や編集方針の見直しを図り、これまで4名体制だった委員会に、新たに2名の会員の方が委員に加わり、6名体制へと拡充しました。委員会では、編集方針について十分時間をとって話し合いをし、その結果、有益な議論と一定の結論を導き出すことが出来ました。

その具体的な対応は以下の通りです。依頼原稿・投稿原稿に対して、これまでは執筆者の原稿をそのまま本誌に掲載していましたが、編集委員全員が手分けして原稿への「校閲」を行いました。この校閲では、読者がより読みやすくなるよう、文章表現や図表の提示方法などについて、校閲者の意見を原稿に追記して執筆者に伝えました。校閲者の意見は、必ずしも強制するものではなく、参考意見であり、これに対する対応は執筆者にお任せしています。その結果、多くの執筆者の方々が、これらの校閲者からの参考意見に積極的に対応していただき、よりよい原稿になっていきました。

編集委員会の役割として、編集委員会規程の第2条(2)に「査読」の規程を設けました。この投稿原稿に対する査読の実施についても当委員会では議論を行い、まずどのような体制で行うのか、査読を課す投稿原稿をどのように選ぶのかを議論し、本誌の性格上、必ずしも学術論文として査読を行う必要のない論考もあり、今号で査読を直ちに実施することは、時期尚早との意見にまとまりました。査読過程についての取り決め等は、当委員会の今後の課題としております。

前号の「編集後記」に書きました課題の内、「1. 書き手を増やす」ことはまだまだ途上ですが、「2. 編集体制の確立」はある程度進めることが出来ました。さらに「3. 新たな企画」では、今号で書評を1篇掲載することが出来ましたが、その他に「過労死関係の文献情報、新聞記事・雑誌記事情報、過労死をめぐる年間動向」などの大きな課題が残っています。この冊子を読めば過労死防止関連の概要が分かる、また、いつでも知りたい情報が掲載されている冊子である、ということが、この学会誌が目標とすべき一つだと思っています。

最後になりましたが、昨年の総会において学会誌を学会のホームページに公開することが決まりました。学会誌の発行日の1年後に、ホームページに公開し、多くの方々に論考を読んでいただけるようになります。まずは、第1号・第2号を今年3月中にホームページに掲載いたします。ぜひともご覧ください。またお知り合いの方へもお勧めください。

創刊号以来、教え乞うている某出版社の方からは、第1号では多くの示唆をいただき、さらに、第2号では問題はあるが、なんとか及第点をいただきました。今号はどうでしょうか。

会員の皆様、本学会誌へのご意見・ご要望・ご示唆などをぜひお寄せください。過労死防止運動に学会として寄与するため、今後ともよろしく願いいたします。

2023年3月1日

編集委員 高田好章

編集後記

『過労死防止学会誌』第4号を、会員の皆様方にお届けいたします。

今号には、昨年9月の第9回大会報告者のうち、「特別講演」と「共通論題」の報告者から、大会での報告と会場における議論を踏まえて、改めて論考を執筆していただきました。また、これまでと同様に、分科会報告者の方々に論考を募り、さらに、広く会員の皆様にも原稿募集をおこない、投稿していただきました。その結果、第1部の「特集」は、「共通論題」の報告者への依頼に2本の原稿を寄せていただき、また、第2部の「研究論文・その他」には、特別講演および分科会報告者、さらに当学会会員から、合わせて11本の投稿があり、今号には、13本の論考を掲載しています。

なお、第3号では、2つの特集と投稿合わせて25本の論考が掲載しております。第3号では、特集にコメントも掲載したことに対して、今号は特集が一つだけという事情もありますが、第2部では、第3号と同じ11本の中では論考が投稿されています。今号には、「特別講演」と「共通論題」の一部の報告者から論考が寄せられなかったこと、また投稿原稿が増えなかったことが、編集委員会として今後の学会誌の発行に関わる、重要な一つの課題であります。分科会報告者やその他の会員の積極的な投稿を、さらに広く呼びかけていかねばならないと思っています。さらに、今号にも書評が掲載されていますが、第3号と同じ執筆者による1本のみです。この1年間に出版された過労死問題・過労死研究の書籍への当学会から書評および紹介は重要な使命でもあります。これに対して、投稿だけでなく、編集委員会からの書評原稿依頼も検討課題の一つとしてあげたいと思います。

これまで当学会誌へ目標の一つとして、当学会の過労死問題および過労死研究の海外への発信の具体的な事項として、論考の「英文タイトル」と「英文サマリー」の掲載が常任幹事会および編集委員会において課題として話し合われてきました。今号ではそのうちの英文タイトルを初めて掲載することとなりました。執筆者の方々から、また編集委員からも英文タイトルの草案を寄せていただき、幾人かの方々のご協力もいただき、編集委員会での議論を踏まえ、今号に掲載することが出来ました。さらなる目標として、英文サマリーがありますが、まずは日本語による要約を含めて、今後の重要な課題の一つといたします。

さらに、もう一つの課題は、「編集委員会規程第2条」にある「査読」の実施です。研究者にとっては、学術論文の評価に関わる重要性があり、今後、実行できる体制を整えてまいります。なお、第3号から実施を始めた、提出原稿への編集委員による「校閲」は今号でも行い、一定の成果を得たと思っております。

前号でも書きましたが、「過労死関係の文献情報、新聞記事・雑誌記事情報、過労死をめぐる年間動向」などの大きな課題が残っています。この冊子を読めば過労死防止関連の概要が分かる、また、いつでも知りたい情報が掲載されている冊子である、ということが、この学会誌が目標とすべき一つだと思っています。

編集委員会は、新たな委員長と委員1名増員のもと、第4号を編みました。今後も、上記に記載した様々な課題を含めて、委員共ども取り組んでまいります。

会員の皆様、また本学会誌を読まれた方々、本学会誌へのご意見をお寄せください。また、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。過労死防止運動に学会として寄与するため、今後ともよろしくお願いいたします。

2024年3月1日

編集委員 高田好章